

「第14回産業日本語研究会・シンポジウム」の開催について

令和4年11月

産業日本語研究会世話人会

代表：井佐原 均	(追手門学院大学)
委員：辻井 潤一	(産業技術総合研究所)
橋田 浩一	(東京大学)
隅田 英一郎	(情報通信研究機構)
柏野 和佳子	(国立国語研究所)
李 在鎬	(早稲田大学)
西出 隆二	(日本特許情報機構)

開催趣旨：

人工知能時代の言語コミュニケーション

産業日本語研究会では、産業・科学技術情報の発信力強化や知的生産性の向上を通じて、わが国産業界全体の国際競争力強化に資するような、人間が理解しやすく機械が処理しやすい日本語（「産業日本語」）のあり方を研究しています。この「産業日本語」の研究は、明瞭な日本語文の作成、高品質な翻訳文の作成コスト低減などにつながるものです。

新型コロナウイルス感染症の影響により、テレワークを始めとするリモート化やデジタル化の流れが一気に加速しています。このような面と向かって情報を伝えることが困難な状況では、言語を用いて正確に情報を伝達し理解するコミュニケーションの重要性がより高まっています。また、人工知能技術の進歩により多言語での情報伝達や文章のデータ処理が飛躍的に発展しており、これらの技術をコミュニケーションに活用することなども進展しています。

このような背景のもと、今回のシンポジウムでは、「人工知能時代の言語コミュニケーション」をテーマとし、リモート化やデジタル化の流れが加速する中で、言語を用いた正確な情報の伝達や人工知能の技術を利用したコミュニケーションのあり方など、産業日本語の未来を考える上での最新の知見やトピックスを広くご紹介いただきます。本シンポジウムが、産業日本語の更なる普及につながり、我が国産業界に大いに貢献できる機会になることを期待しております。

産業界、学术界などからの、多くの皆さまのシンポジウムへのご参加をお待ちしております。